

日本の展望委員会「地球環境問題分科会」（第2回）議事要旨

1. 日 時：平成20年10月27日（金）14：00－15：30
2. 場 所：日本学術会議5-A会議室
3. 出席者：河野 長（委員長）、中島映至（幹事）、淡路剛久、前田正史、鷺谷いづみ、
山地憲治
欠席者：岡田清孝、佐藤 薫、松井孝典、安成哲三、山本眞鳥
4. 議 題：

- (1) 前回議事要旨（案）の確認
- (2) 分科会の検討事項について
- (3) 今後の進め方について
- (4) その他

5. 資 料：

- 資料1 前回議事要旨（案）
- 資料2 今後の進め方等について（改定案）
- 資料3 「日本の展望」の成果物とその取扱い（案）
- 資料4 「地球温暖化問題に関わる知見と施策に関する分析委員会」
設置提案書・委員名簿

6. 議事概要

(1) 前回議事要旨（案）の確認

- ・最後から5行目、「拘置」を「耕地」に変更の上承認。

(2) 分科会の検討事項について

- ・委員長から、資料1-3に基づいて、10月3日に開催された日本の展望委員会での議論や決定事項について説明があった。
- ・委員長から、資料4に基づいて、20期の地球温暖化問題の課題別委員会の報告書が採択されなかったために、21期に「地球温暖化問題に関わる知見と施策に関する分析委員会」が設置されて、報告書を取りまとめる作業を進めることになった旨報告があった。
- ・前回委員の追加を考えた以下の3分野について、以下の方々を候補者とすることにした。

国際環境法	高村ゆかり	甲南大学	（淡路委員推薦）
環境経済学	植田和弘	京都大学	（鈴木副会長推薦）
農学関係	佐藤文彦	京都大学	（岡田委員推薦）
- ・これらの委員候補者に対し、委員長から就任を依頼し、受諾の返事をもらったうえで、幹事会に委員追加の申請をする。植田教授については特任連携会員の発令も願う。

(3) 今後の進め方についての検討

- ・本日の会議は前回出席者がほぼ全員出席できる予定であったにもかかわらず、新たに参加された2委員を加えてもやっと定足数を満たす人数であった。委員が大変忙しいために今後も委員会開催に困難が予想される。
- ・その状態で実質的な議論を始めると、今回欠席の委員が次の委員会に出席された場合に、同じ議論を繰り返さなければならない事態も予想される。こうならないためには、全委員から前もって取り上げるべき論点とそれをどう扱うかについての意見を集めておいて、それを用いて委員会で議論するのが良い。
- ・提出してもらうのは、あまり敷居を高くしないよう、題目と数行の説明（項目が複数なら

その繰り返し) ぐらいをお願いすればよい。

- ・一方、意欲をお持ちの方には図や表をつけたり、引用文献をあげるなど本格的なものを書いていただくこともできる。

- ・どういう立場に立って作ろうとする文書かを明確にする必要がある。

→第四次総合科学技術計画に影響を与えることも目標ではあるが、直接的な政策提言をするというよりは、学術の立場から見て重要と思われる問題を指摘するというスタンスだと思う。日本学術会議からは 10 年から 20 年という比較的長い将来を見通しての指摘がしたい。一方政策として取り上げるものはそれよりはずっと短い期間を対象と考えるであろう。

- ・地球環境は人類が解決すべき課題である。その解決へ向けたプロセスで科学がどういう取り組みをしているか、またどういう問題が解決を待っているかをグローバルな視点でかく。例えば生態系の利用・管理といった問題は国際的にも大きく取り上げられており、IPCC の場合と同様に 1000 人以上の各国の科学者が参加して人間活動と自然環境についての報告書が 2005 年に出版されている。日本からは里山のアセスメントについて取り上げた。こういうものを基礎に取り上げるべきである。

以上のような議論に基づき、まずメールで各委員に呼びかけ、取り上げるべき項目とその簡単な説明を文書で提出してもらうことになった (11 月上旬連絡、12 月上旬締切)。

(4) その他

次の開催予定は、文書提出の締め切りの後、12 月中に 1 回、1 月に 1 回予定する。日程調整については前田委員が担当する。

以上